

**環境技術実証事業 VOC 簡易測定技術分野の
これまでの検討経緯及び今年度の検討事項（案）**

1. これまでの検討経緯

(1) 概要

- 平成 20 年度第 1 回環境技術実証事業検討会において、新たな技術分野として「VOC 簡易測定技術分野」が取り上げられ、平成 21 年度以降に技術の実証を行うことが適当であると判断された。
- これに基づき、「VOC 簡易測定技術分野ワーキンググループ」が設置され、専門的な知見に基づく検討の結果、当該技術分野の実証試験要領案が示された。
- 平成 21 年度は、国負担体制で 4 件の技術に関して実証試験が実施された。
- 平成 22 年度は、同体制で 1 件の技術に関して実証試験を実施された。

表 1 これまでの経緯

日時	WG・実証機関における主なトピック	
平成 20 年度		
9 月 5 日	・ 対象技術としての適切性について検討	H20 第 1 回 WG
12 月 22 日	・ 実証対象技術の検討 ・ 実証試験方法の検討	H20 第 2 回 WG
3 月 3 日	・ 実証試験要領(案)の検討	H20 第 3 回 WG
平成 21 年度		
6 月～7 月	・ 実証機関の募集	環境省
7 月 21 日	・ 実証試験要領策定 ・ 実証機関の公募・選定に関する検討 ・ 実証機関の審査	H21 第 1 回 WG
11 月	・ 実証機関の選定 ・ 実証対象技術の募集	環境省 実証機関
12 月～1 月	・ 実証対象技術の選定 ・ 技術実証委員会の設置	実証機関
1 月～2 月	・ 実証試験の実施	実証機関
2 月 25 日	・ 実証試験実施状況及び概要の報告 ・ 実証試験要領改訂に向けた検討	H21 第 2 回 WG
2 月～3 月	・ 実証試験結果報告書のとりまとめ	実証機関／WG
3 月 18 日	・ 実証試験報告書(案)の確認 ・ 実証試験要領の見直し	H21 第 3 回 WG

平成 22 年度		
12 月	・ 実証機関の募集	環境省
12 月 22 日	・ 実証試験要領策定 ・ 実証機関の公募・選定に関する検討 ・ 実証機関の審査	H22 第 1 回 WG
1 月	・ 実証機関の選定 ・ 実証対象技術の募集 ・ 技術実証委員会の設置	実証機関
2 月 7 日	・ 実証対象技術の選定	実証機関
2 月 17 日	・ 分野の改善方針に関する検討 ・ 事業及び実証試験への要望、意見	H22 拡大 WG
2 月～3 月	・ 実証試験実施	実証機関
2 月～3 月	・ 実証試験結果報告書のとりまとめ	実証機関／WG
3 月	・ 実証試験報告書(案)の確認	WG

(2) 実証試験要領の主な改訂（概要）

初版 平成 21 年 6 月 16 日 公表

第 2 版 平成 22 年 12 月 7 日 公表

<初版からの改訂内容について>

- 「実証試験区分の選択」、「模擬ガスの測定」、「個別 VOC の測定」について規定を変更
- 実証試験の内容に関しては、特に変更なし

2. これまでの実証実績

- 当該技術分野では、平成 21 年度において合計 4 技術に関して実証試験を実施した。具体的な実証技術を下表に示す。
- 平成 22 年度は、下表に示す 1 技術について実証試験を実施した。
- 平成 21 年度と 22 年度は国費負担体制で実施し、23 年度以降は手数料徴収体制に移行する。

表 2-1 平成 21 年度の実証対象技術

実証番号	実証対象技術	環境技術開発者
100-0901	VOC 簡易測定システム VOC-1	光明理化学工業株式会社
100-0902	ハンディ VOC センサー VOC-121H、VOC-101H (同一規格製品) エイブル株式会社 ハンディ VOC センサー VOC-201H	有限会社オー・エス・ピー
100-0903	ハンディ TVOC モニター FTVR-02	フィガロ技研株式会社
100-0904	ガスリーク検知器 GL-103	理研計器株式会社

表 2-2 平成 22 年度の実証対象技術

実証番号	実証対象技術	環境技術開発者
※	VOC モニター VM-501	有限会社オー・エス・ピー

※個別ロゴマークが確認され次第、速やかに交付予定

3. 今年度の検討事項

平成 23 年度より国負担体制から手数料徴収体制に移行し、実証申請者の負担が増大するため、実証メリット向上が今まで以上に必要になる。そのために、以下のような取組が考えられる。

(1) 対象技術分野の拡大検討

<現状>

本実証試験の VOC 簡易測定技術とは、操作・管理の容易性や定量の迅速化などの特徴をもったもので、VOC 取扱い事業所における工程管理、機器管理等、VOC 排出削減の自主的取組みに有用な技術を指すものとする。

<変更案>

本実証試験の VOC 簡易測定技術とは、操作・管理の容易性や定量の迅速化などの特徴をもったもので、VOC 取扱い事業所における工程管理、機器管理、VOC 処理装置管理、作業環境管理等、VOC 排出削減の自主的取組みに有用な技術を指すものとする。

(2) 実証試験結果報告書記載方法の検討

現在の報告書では、実証試験結果を忠実に記載するのみであるが、ユーザーが実証技術を購入する際に検討しやすくなるように、実証技術の特徴や実証試験結果を比較できるよう、記載方法を検討。

(3) 広報、PR 活動の検討

- 学会、展示会への出展（パネル、資料、実証技術製品）
- 学会誌、会報・会誌等への投稿
- 資料の充実（8 ページの PR 資料を作成。日本語、英語、中国語、インドネシア語、ベトナム語）
- その他